

**令和5年度第1回青森市廃棄物減量等推進審議会
会議概要**

1 日時

令和6年3月26日（火） 10時00分～10時40分

2 場所

青森市中央市民センター 3階 中会議室（1）

3 出席者

【委員】

佐々木委員（会長）、青山委員、一戸委員、伊藤委員、竹中委員、三津谷委員、安田委員
（西田委員が欠席し、8名中7名出席）

【事務局】

環境部 佐々木部長、泉次長

環境政策課 佐藤主幹、廃棄物対策課 上野課長

清掃管理課 堰野端課長、松原主幹、日渡主幹、吉田主査、増田主事

青森市清掃工場 小関場長

浪岡振興部

市民課 山口課長

4 会議の公開、非公開の別

「青森市附属機関の設置及び運営に関する指針」に基づき、会議は原則として公開することとしており、当審議会においても公開とした。

5 会議内容

（1）令和5年度第1回審議会

①開会

②審議「令和6年度青森市一般廃棄物処理実施計画（案）について」

配付資料「可燃ごみ排出量の状況」、「令和6年度一般廃棄物処理実施計画（案）」について、事務局から説明を行い、委員から意見・質問等をいただいた。

③その他

④閉会

6 会議要旨

（委員）

可燃ごみ減量化目標の数値について確認したい。資料1「可燃ごみ排出量の状況」と資料2「青森

市一般廃棄物処理実施計画（案）」で項目の「可燃ごみ減量目標設定時における目標排出量」の各年度の数値が異なっているが、誤植ではないか。

（事務局）

本市は、広域町村（平内町、今別町、蓬田村）からごみを受け入れ処理しているので、資料1「可燃ごみ排出量の状況」の項目「可燃ごみ減量目標設定時における目標排出量」の数値は、青森地区・浪岡地区・広域町村のごみ量を踏まえた目標設定となっており、資料2「青森市一般廃棄物処理実施計画（案）」の項目「可燃ごみ減量目標設定時における目標排出量」の数値は、広域町村のごみ量を除く、青森地区・浪岡地区のごみ量を踏まえた目標設定のため、数値に違いが生じているものである。

（委員）

将来、生活に便利な製品が開発されることにより、火災発生等の事故の原因となる新たな危険ごみが発生し混入することが予想されるが、青森市清掃工場の運営事業者とは、事故リスクのある品目について情報交換をする体制は構築されているのか。

（事務局）

事故の危険性のある品目の情報を共有し対策を講じることについては、運営事業者との契約により定めている。

これまでは、カセットボンベ・ガスライターなどの破砕の衝撃ですぐ発火する製品に着目していたが、令和4年3月公表の「リチウム蓄電池等処理困難物対策集」で、破砕による衝撃から徐々に温度が上昇し発火に至る製品の情報が示されたことにより、青森市清掃工場の火災対策整備工事を行うこととした。

これに加え、将来、新たな製品が開発されることによる危険ごみへの対策については、今後も連携を密にして事故防止に努めていく。

（委員）

資料1「可燃ごみ排出量の状況」では、令和5年度の可燃ごみ排出量が昨年度比3,800トン減少するものと見込まれており非常に良いことと思うが、この減量の要因は何と考えられるか。

（事務局）

令和2年度から令和4年度までの減量実績及び令和5年度の見込みを比較していただくと御理解いただけるかと思うが、新型コロナウイルスの感染拡大により、巣ごもり消費による生活系ごみの増加などが影響し、減量実績に変動が見られている。

基本的には、令和5年度見込みについては人口減少に伴う減量の影響が大きいものと推察している。